

# 八幡川の史跡(城跡・橋)

八幡川  
歴史散歩  
ガイドブック

## 城跡など

**山根城跡** 俗に城山とも言われ、河内小学校北の谷に張り出した小山が山根城跡です。戦国時代の初期に築かれた山城で、城主は河内肥後守とも波辺肥後守とも言われ、城跡の形をよく残しています。頂上には本丸がその下に二の丸・三の丸・蔵屋敷などの遺跡がよく残っていますが、礎石は現存していません。城の北西の谷間から水道を掘り進めましたが、完成までには至らなかったということです。掘削や水道の跡は、現在山道として利用されています。地元の古者は子どもの頃に、蔵屋敷あたりを遊び場としていたそうです。その当時には、焼けた穀物や陶器の破片などが出土したと話されています。



山根城址

**切腹岩** 戦国時代に、ある夜河内川(現八幡川)を隔てて向かいの山頂におびたしい松明の火が見られました。敵の来襲に備えて大手(城の正面)を固めていましたが、敵は、城の後方から攻めてきたため、もろくも落城したと言われています。時の侍大将の権城肥後守は落城により驚きで逃れ、大石に寄りかかり切腹したと伝えられています。



切腹岩

**古野の五輪塔** 古野の山麓に五輪塔墓が十数基あり、一説に善正寺纏りの墓と言われています。

**山田家の碑** 伊勢山田村より903年(延喜3年)清明次判という人が、猿田彦神と天鈿女神をお迎えしました。代々神楽を勤めましたが、この碑には同人を初代として、52代までの姓名が刻まれています。



山田家の碑

## 橋

**温泉大橋** 八幡川にかかる佐伯区内の橋の中でこの橋は唯一赤い橋干の橋です。八幡川に架けられ、四季の景観によく映えています。



温泉大橋

**古野橋** 上河内中郷地区から古野地区へ架けられた橋で、1951年(昭和26年)のルース台風で流され、架け替えられました。

**原田橋** 1951年(昭和26年)のルース台風で流され、1956年(昭和31年)に架け替えられました。橋に近接し半円形の水道管が架設されています。橋名は上河内の宇原田に由来します。

**錦橋** この橋は、広島綿糸紡績工場が建てられたことにより架けられ当初は「紡績橋」と呼ばれていたようですが、その後「にしきわた株式会社」が操業をはじめ「にしき」の文字をとって錦橋といわれるようになりました。1978年(昭和53年)に架け替えられました。



昔の錦橋



現在の錦橋

# 八幡川の伝説

八幡川  
歴史探訪  
ガイドブック

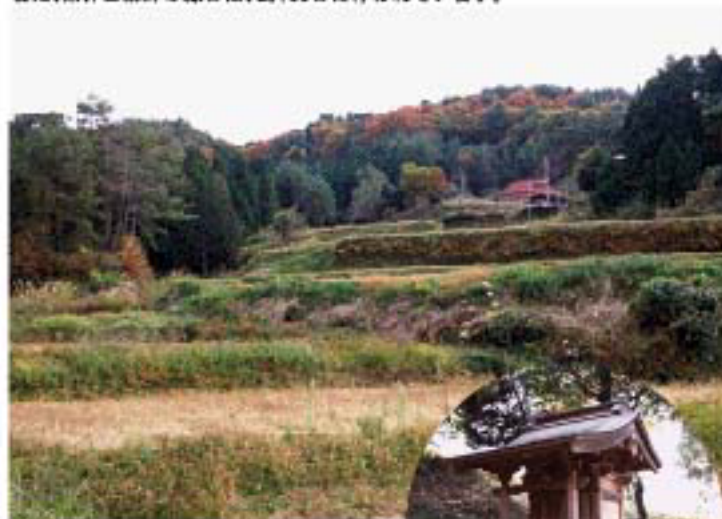
## 大杉のはなし

むかし行基という偉いお坊さんが、奈良の東大寺を建立するための費用を集めるために瀬戸内海を船で宮島に向かっていました。

北方の山頂から光明が降りているのを見て不思議に思い船を陸につけその光明の出た山に登りました。

そこには苔むした杉の大木が空を覆さんばかりの勢いで茂ってありました。行基は「これは御仏のお導き」と思い、村の人々に手伝ってもらい杉を切り、その杉の中心部で千手観音像を刻み、南の峰の頂上(福寿寺)に祀り、残った木で薬師如来像(保井田薬師堂)・大仏像(八幡東二丁目・田中寺)を刻まれたそうです。

福寿寺の縁日は、4月の第3日曜日に行われています。また、保井田薬師の縁日は、2月11日に行われています。



大杉地区



大杉神社

## 次郎五郎の滝のはなし

むかし河内の村に、自慢の釣堀で身や獣を捕って生活していた猟師が住んでいました。この猟師には、二人の子どまがおり、兄を次郎といい弟を五郎といいました。

ある日のこと、この猟師がいつせのように山に入り獲物を探しておりました。見事な大滝を河内川(八幡川)の鼻で見つけ、自慢の釣堀で釣とめました。

この見事な大滝を見ようと近所の人々が見物に来るほどでした。

しかし、それから猟師は、原因不明の病にかかり寝たきりになってしまいました。すると、不思議なことに体中に虫のような斑点が出て、とうとうなくなってしまうました。

それから3年が過ぎ、次郎五郎の兄弟がいつせのように山に猟に出かけていた時に、2匹の仔魚を見つけ、後を追いかけて1匹を籠籠に追い詰めました。仔魚は籠籠の下の滝壺へ・・・それを知らない次郎五郎の兄弟は、仔魚を逃がすように滝壺に落せてしまいました。

村人が、次郎五郎を探しましたが、釣堀だけを見つけることができたそうです。それから何年かが過ぎ、滝の源で大きな鯉を2匹見るようになりました。

村人は、それを次郎五郎の化身だと信じ、その滝を次郎五郎の滝と呼ぶようになりました。

